

【先-28】 徳山下松港・宇部港における港湾運営のあり方検討調査 (対象箇所: 山口県下松市、周南市、宇部市)

【実施主体】山口県 ①
平成25年度

目的

徳山下松港・宇部港においては、大型船舶を活用した一括大量輸送による石炭の安定的かつ安価な輸送を実現するため、港湾連携の推進を進めることとしている。
そのような状況の中、本調査では、下松・徳山・新南陽・宇部地区のバルク埠頭を対象として、官民のそれぞれが果たすべき役割及び連携手法などの港湾運営のあり方について検討するものである。

目次

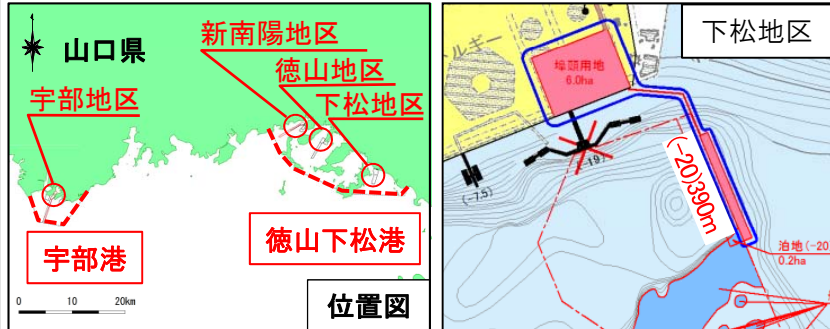
- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1 業務概要 | 5 機能のグルーピングと港湾運営を担う組織の役割 |
| 2 徳山下松港・宇部港の概要 | 6 港湾運営のあり方 |
| 3 現状認識 | 7 港湾運営を担う組織の設立に向けた検討の流れ |
| 4 港湾運営機能の抽出 | 8 官民連携スキームの検討 |

これまでの経緯

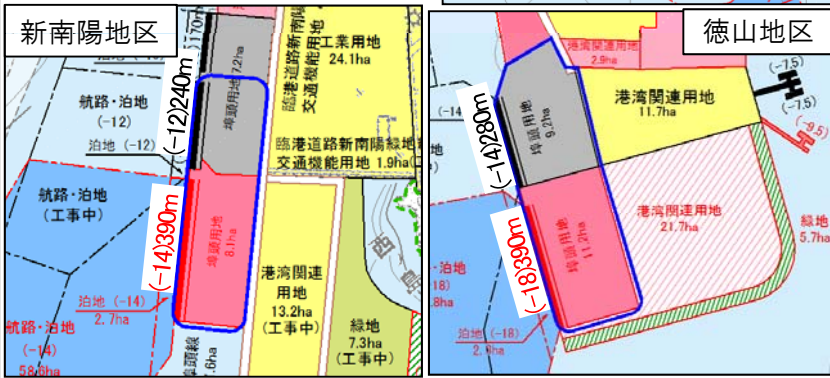
平成23年5月 徳山下松港・宇部港が国際バルク戦略港湾選定
平成25年12月施行 [法改正]特定貨物輸入拠点港湾の制度導入
平成26年3月予定 徳山下松港 港湾計画改訂
(効率的な運営を特に促進する区域を設定)

施設の概要

徳山下松港港湾計画改訂案(H26.3改訂予定)において、大水深施設を拠点として一体的な埠頭運営により大量のバルク貨物を効率的に取り扱うため、「効率的な運営を特に促進する区域」を位置づける下記3地区に加え、宇部港の専用埠頭を検討対象施設とする。



効率的な運営を特に促進する区域



結論

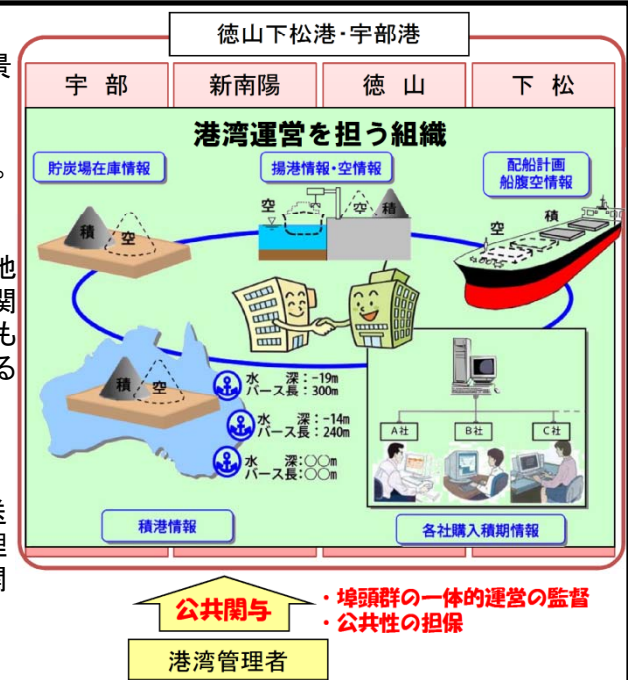
■徳山下松港・宇部港における背景
・異なる運営形態のコールセンターが集積。
・製造業(荷主)の国際競争が激化。

■山口県の施策
公共インフラ整備はもとより各地区の連携において、港湾管理者も関与することにより、ハード・ソフトともに最大最適を回り、民間活力による効率的な運営を促進する。

民間企業主体の連携(共同輸送等)・港湾運営に対して、港湾管理者が埠頭群全体を「官」の視点で関与していくことが必要。

【港湾管理者による港湾運営への関与】

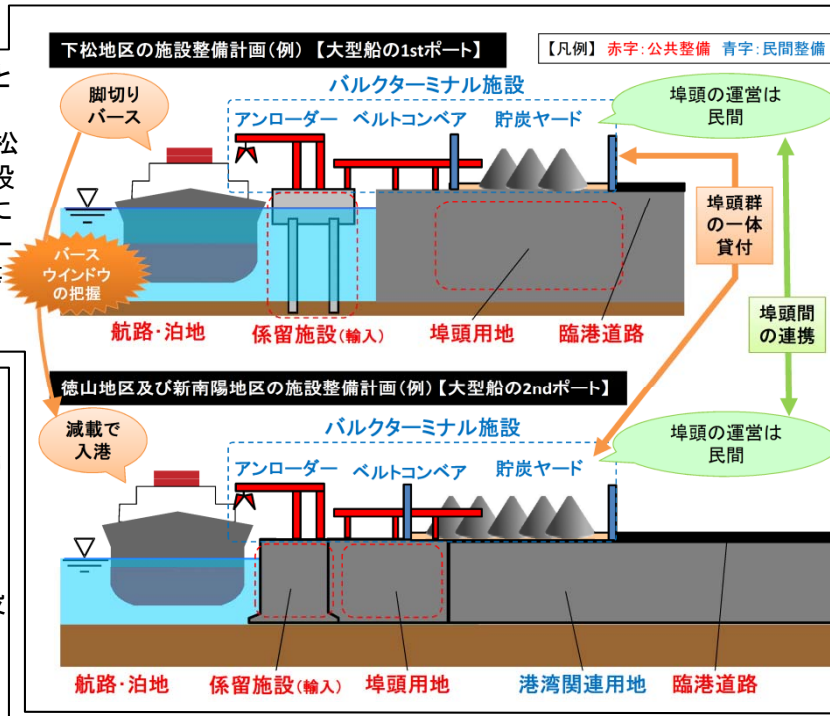
- ◆埠頭群を効率的に運営し、民間企業の国際競争力の相乗効果を発揮するためには、運営形態が異なるバルクターミナルの利害関係が発生しないよう、企業間の連携の中に港湾管理者が関与していく。
- ◆他港とのネットワークを拡大させるなど連携を進展させる際には、その他の企業が排他的にならないよう公共性を担保する。



結論(続き)

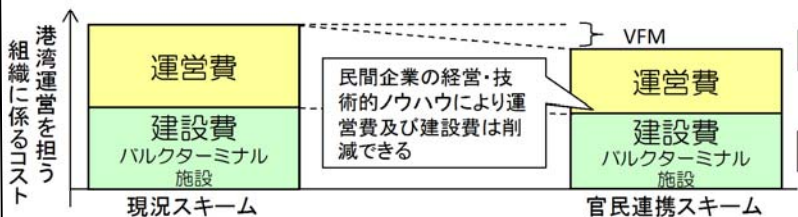
【官民が連携した施設整備と埠頭間の連携イメージ】

港湾運営を担う組織が下松地区にバルクターミナル施設を整備し、他地区との連携に必要な埠頭群管理(バスウインドウの情報共有)等の運営を実施していく。



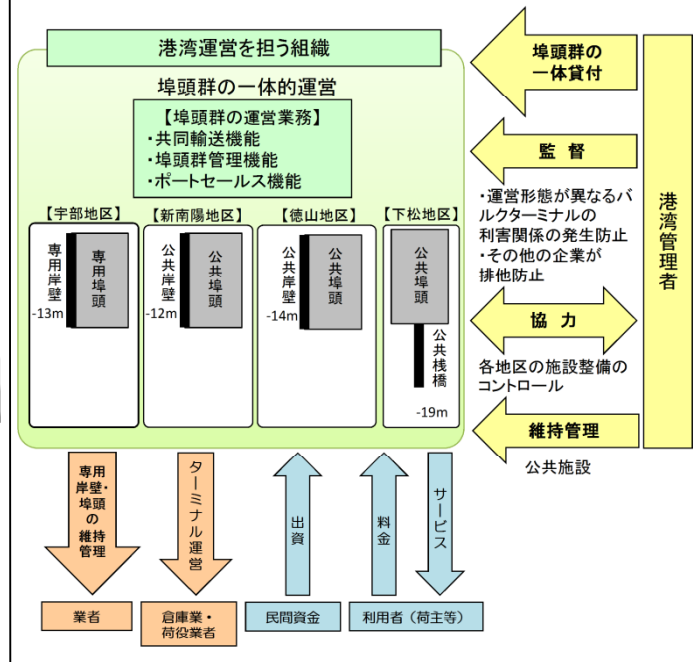
【官民連携スキームにより期待される効果】

- ・民間企業のノウハウにより運営費及び建設費を削減
- ・公共の大水深施設で大型船舶の脚切り(喫水調整)が可能となり、石炭の荷役保管サービスを提供
- ・計画的な維持補修計画により常時船舶受入可能



【官民連携による連携体制図(素案)】

- ・新規棧橋や埠頭用地等は港湾管理者、バルクターミナル施設は港湾運営を担う組織が資金調達し、設計・建設等を実施。
- ・港湾運営を担う組織が埠頭群を港湾管理者から一体貸付を受け、ターミナルの運営を行う。
- ・日々の施設維持管理は港湾運営を担う組織が行う。



連携体制の構築に向けた今後の展望

【今後の課題】

- ・コストメリットや整備費の定量的な検討
- ・荷主と倉庫業の参画・連携への適合性検討

「山口県国際バルク戦略港湾連携協議会」と連携して、港湾運営についてスキームを構築するため更なる検討を進めていく。

【今後のスケジュール】

